

南九州における軽種馬用放牧草地の現状

寺田康道・*浜崎和雄 (九州農業試験場・*前九州農業試験場)

Yasumichi TERADA and Kazuo HAMASAKI : Grazing Pastures for Racing Horse Production in Southern Kyushu

南九州には230戸以上の軽種馬生産牧場があり、日本の競争馬生産の一端を担っている。南九州は温暖な気候から一年中青草が得られること及び一年中放牧と運動、調教が出来ることから、秋から春まで北海道から育成馬を移動してくることも多く、冬季の放牧需要が高い。一方、日本の軽種馬は海外導入等によって遺伝的素質は高いが、海外レースでは外国産より劣ることが多い。その原因として繁殖・育成中の放牧草地の土質、草量、草質や放牧様式の差が揚げられる。そこで南九州の軽種馬牧場の放牧草地の調査を1990年、'91年に行った。

1. 軽種馬牧場の放牧草地

調査牧場の放牧草地の10月の現状を表に示した。A牧場は霧島山北麓標高350mの畑作地帯にあり、放牧草地4ha、飼養頭数は6頭で、草種は秋から春はイタリアンライグラス、6月に不耕起でギニアグラス、スーダングラスを追播した1年2作体系である。雑草はメヒシバ、ハマスゲが多い。B牧場は霧島山南麓標高250m程度の波状丘陵台地にあり、放牧草地は4ha、馬飼養頭数は7頭で、草種はオーチャードグラス、トールフェスク、シロクローバ、パヒアグラスの混播であるが、現在は寒地型牧草が衰退しパヒアグラスが優占している。パヒアグラスは採食された所は芝生状の密な植生を維持しているが、過繁茂になったところは採食性が低く、チガヤ、メヒシバの侵入している。

C牧場は加治木町のシラス台地に位置し、草地面積は3haであり、馬飼養頭数は9頭である。草種はパヒアグラス、オーチャードグラス、トールフェスク、アカクローバ、イタリアンライグラスの混播であるが、現在はパヒアグラスが優占し、裸地率が25%である。D牧場は大隅半島中央部の有明シラス台地に位置し、放牧草地2.3haで、馬飼養頭数は16頭である。草種はイタリアンライグラス、オーチャードグラス、トールフェスク、アルファルファの混播であり、現在トールフェスク、オーチャードグラスが残っているが、ノチドメの侵入が著しく、過放牧により裸地率が高い。E牧場はD牧場と同じ有明シラス台地にあり、一周200m程度の馬場の内側が放牧草地で、草種はオーチャードグラス、トールフェスク、アカクローバの混播で、牧草優先の地点ではトールフェスクの被度が高いが、過放牧のため裸地率が高く、メヒシバが侵入している。

F牧場、G牧場は3年前にイタリアンライグラス、オーチャードグラス、トールフェスクを混播した草地であるが、両放牧地とも寒地型牧草が衰退している。F牧場では過放

牧によって裸地が増加し、前植生のパヒアグラスが再生優先している。G牧場は放牧強度が低いため裸地はほとんど無く、牧草に替わって各種の雑草が優先し被度が高い。

2. 放牧草地の特徴と問題点

南九州の軽種馬放牧草地の特徴としては、粗飼料給与の主体が購入チモシー乾草、自家製乾草、イナワラなどであり、放牧草地は馬の運動を兼ねたパドック的利用のため、過放牧によって裸地化している場合が多い。放牧草地の草種としてはトールフェスク、オーチャードグラスなどの寒地型牧草が多いが、イタリアンライグラスとの競合や夏枯れで生存年限が短く、2年程度で更新が必要になっている。更新が遅れると過放牧の場合は裸地が増え、中程度の放牧強度でメヒシバ、放牧密度が低いと雑草の種類が増え、古い草地ではチガヤの侵入がみられる。イタリアンライグラスなどの一年生牧草は冬季の放牧や草量増加のために用いられている。パヒアグラスは過放牧に耐え、採食によって芝生状の密な植生を形成し、維持年限が長いことなどの利点があるが、嗜好性及び放牧期間が短いことが欠点として揚げられる。

そこで、今後は嗜好性の高いパヒアグラス品種「ナンオウ」などの暖地型牧草を基幹草種として、冬季放牧のためイタリアンライグラスなどの寒地型牧草を追播などで組合せた放牧草地の利用が必要である。

第1表 南九州軽種馬放牧草地の構成草種と被度 (%)

草種	牧場	A	B	C	D	E	F	G
スーダングラス		32						
パヒアグラス			33	48			73	
オーチャードG			5		15	9		2
トールフェスク			2	1	37	38		1
シロクローバ		1	1					
アカクローバ						5		
牧草合計被度		33	41	49	52	52	73	3
メヒシバ		55	20	7	1	10	1	17
エノコログサ		13	6	10				
スズメノヒエ			2					11
ギョウジシバ								24
チガヤ			27					
ヤハズソウ		1		8				25
オオバコ		3	2				4	2
ヨモギ		2	6			5		
ハマスゲ		30						
ノチドメ			13		22			30
その他の雑草		5	6	1	1	2	9	2
雑草合計被度		109	82	26	24	17	14	111
裸地率		0	9	25	37	40	25	1